

## 平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	人体構造及び日常生活行動 (Structure of Human Body and daily living)	授業コード	K006401
担当教員名	佐保 嘉代子	科目ナンバリングコード	K10602
配当学年	4	開講期	前期集中
必修・選択区分	必修	単位数	2
履修上の注意または履修条件	高等学校教諭一種免許状(福祉)の取得希望者は必修科目となっています。		
受講心得	見ること, 聞くこと, 真剣に考えること, そして, 自分の意見を持つことを心がけてください。		
教科書			
参考文献及び指定図書	新・社会福祉士養成講座 人体の構造と機能及び疾病-医学一般-社会福祉士養成講座編集委員会(編)中央法規 新・介護福祉士養成講座 第14巻 こころとからだのしくみ 介護福祉士養成講座編集委員会(編)中央法規		
関連科目			

授業の目的	健康な状態の身体の構造と心身の機能について理解したうえで、疾病の概要、症状、予防、障害の概要を学び、他職種との連携により、チームで課題を解決する方法を身につける。
授業の概要	乳幼児期から成長過程を経て、高齢期に至るまでの共通性を学び、身体の構造と心身の機能を理解したうえで、日常生活との関係性について学ぶとともに、支援者としての専門性について学習する。成長過程及び身体構造、日常生活との関係性等については佐保が担当し、支援者としての専門性については鍋田が担当する。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：人間の発達・成長(1)(佐保 嘉代子)</b> 身体と精神の成長・発達(乳幼児期から成年期まで)	配布資料
<b>第2週：人間の発達・成長(2)(佐保 嘉代子)</b> 身体と精神の成長・発達(老年期)と日常生活及び高齢者の健康について	配布資料
<b>第3週：心身機能と身体構造の概要(1)(佐保 嘉代子)</b> ①人間の生命維持と生体恒常性のしくみ ②人体の構造や関節可動域、ボディメカニクスなどの機能	配布資料
<b>第4週：心身機能と身体構造の概要(2)(佐保 嘉代子)</b> ③人体各部の名称(全身・骨) ④各臓器の構造と機能について	配布資料
<b>第5週：日常生活と健康(佐保 嘉代子)</b> ①健康とは何か ②WHOの定義	配布資料
<b>第6週：自立生活に向けた支援の必要性(鍋田 耕作)</b> ①「自立」とは何か ②自立生活支援の現状 ③国際生活機能分類(ICF)の基本的な考え方・概要	配布資料
<b>第7週：自立生活における支援の構成要素(鍋田 耕作)</b>	

①クライアントシステム ②ニーズの把握方法 ③社会資源	配布資料	
<b>第8週：チームアプローチの意義と方法(鍋田 耕作)</b>		
①他職種連携における支援の必要性 ②他職種の役割と位置づけ	配布資料	
<b>第9週：自立生活支援に関する法制度(鍋田 耕作)</b>		
①障害者自立支援法 ②介護保険制度 ③医療制度 ④その他	配布資料	
<b>第10週：生活支援に必要なところとからだのしくみの理解(1)(佐保 嘉代子)</b>		
①身支度に関するところとからだのしくみ ②移動に関するところとからだのしくみ	配布資料	
<b>第11週：生活支援に必要なところとからだのしくみの理解(2)(佐保 嘉代子)</b>		
③食事に関するところとからだのしくみ ④入浴・清潔に関するところとからだのしくみ	配布資料	
<b>第12週：生活支援に必要なところとからだのしくみの理解(3)(佐保 嘉代子)</b>		
⑤排泄に関するところとからだのしくみ ⑥睡眠に関するところとからだのしくみ	配布資料	
<b>第13週：生活支援に必要なところとからだのしくみの理解(4)(佐保 嘉代子)</b>		
⑦終末期に関するところとからだのしくみ ⑧緊急時におけるところとからだのしくみ	配布資料	
<b>第14週：自立生活を支える専門職(1)(鍋田 耕作)</b>		
①専門職としての価値観 ②専門職としての知識 ③専門職としての技術	配布資料	
<b>第15週：自立生活を支える専門職(2)(鍋田 耕作)</b>		
④専門職としての倫理 ⑤倫理綱領の意義	配布資料	
<b>第16週：定期試験(鍋田 耕作)</b>		
<b>授業の運営方法</b>	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
<b>地域志向科目</b>	該当しない	
<b>備考</b>		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	
<b>【知識・理解】</b>	健康な状態の身体の構造と心身の機能について理解している。 疾病の概要、症状、予防、障害の概要について把握している。 他職種との連携によるチームアプローチの方法および必要性について理解している。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	
<b>【思考・判断・創造】</b>	

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。				
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	100点			
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。				
<b>(「人間力」について)</b>				
<p>※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p>				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	